

Part 1

Hi, there! Today I'm going to talk about curry.

表現) hi, there. 「やあ、こんにちは」

訳) 今日、私はカレーについてお話しします。

When you hear the word "curry", what country do you think of?

熟語) think of A 「Aのことを考える、Aを思いつく、Aを思い出す」

訳) 「カレー」という言葉を聞くと、どの国のことを考えますか？

Yes, India!

訳) そう、インドです！

Many of you know that India is the home of curry.

文法) ^{たんぷくどうけい}単複同型の「you」

「you」には「あなた」、「あなたたち」という意味があります。ここは「Many of you」なので、「あなたたちの多くは」となります。

文法) 漠然と「人々」を指す「you / they / we」

- ・ you は具体的な人を指しているのではなく、漠然と「人々」を表しています。
- ・ they は話し手も聞き手も含まれない場合に用いられます。
- ・ we は話し手を含む「人々」の代表として何かを述べる場合に用いられます。

構文把握)

^{主語} Many of you ^{動詞} know ^{接続詞} that ^{文全体の目的語} India is the home of curry.

S + V + O の第 3 文型「S は O を～する」

目的語内の構造

^{省略可} that ^{主語} India ^{動詞} is ^{補語} the home of curry.

S + V + C の第 2 文型「S = O」 (be 動詞は数学の「=」と同じ働きをします。)

訳) 多くの人々はインドがカレーの母国だと知っています。

However, do you know that there is no dish called curry in India?

文法) 分詞の後置修飾 (名詞 + 現在分詞/過去分詞)

分詞で始まる句 (分詞句) が名詞を後ろから修飾する。

分詞には「現在分詞 (ing)」と「過去分詞」があります。現在分詞は、修飾する名詞と分詞は、する側とする行為を表す能動の関係となります。過去分詞は、される側とされる行為を表す能動の関係となります。

単語) however 「しかし、けれども」

dish 「料理、皿、食器」

訳) しかし、みなさんはインドにはカレーと呼ばれる料理がないことを知っていますか？

Of course, there are many dishes similar to curry in India, but the Indian people do not call them curry.

文法) S + V + O + C の第 5 文型

後半の but 以降の文章は第 5 文型になっています。この場合「O = C」が成り立ちます。

(省略) but the Indian ^{主語}people ^{動詞}do not call ^{目的語}them ^{補語}curry.

注意!) この「them」は前半に使われている「dishes (料理)」の代名詞です。つまり「料理 = カレー」です。

文法) S + V + O + C の文型で用いられる動詞の「call」「O を C と呼ぶ」

熟語) (be) similar to A 「A に似ている」

訳) もちろん、インドにはカレーに似ている料理はたくさんありますが、インドの人々はそれらをカレーとは呼びません。

In India, people often stew meat or vegetables with various spices.

単語) stew 「とろ火で煮込む、シチューにする」

various 「さまざまな、いろいろな」※発音注意 /véəriəs/ 「ベアリアス」

訳) インドでは、人々は多くの場合肉と野菜をいろいろなスパイスと一緒にとろ火で煮込みます。

A long time ago, the British people began to use the word "curry" to explain such Indian dishes.

単語) British 「英国の」※ 「English」とは厳密に言うとは異なります。

explain 「説明する」

such 「そのような、そんな」

熟語) a long time ago 「遠い昔」

訳) 昔、英国人はそのようなインドの料理を説明するために「カレー」という言葉を使い始めました。

It comes from "kari" meaning a sauce or soup in Tamil.

文法) 分詞の後置修飾 (名詞 + 現在分詞/過去分詞)

分詞で始まる句 (分詞句) が名詞を後ろから修飾する。 説明省略

熟語) come from A 「A を語源とする、A に由来する」

訳) それ (curry) はタミル語でソースやスープを意味する「kari」を語源としています。

Part 2

In the past, India was a British colony.

単語) colony 「植民地」

熟語) in the past 「過去、昔」

訳) 過去、インドは英国の植民地でした。

I think you have learned about it in world history.

文法) 現在完了形 (have[has] + 過去分詞)

過去に起きた出来事が現在まで影響を与えていることを表す。

現在完了形は、過去を今の状況とつなげて、「どういういきさつを経て、今、どうなっているのか」を一気に表現する形です。したがって、現在完了形が用いられる場合、その内容は、「今の状況」と関わりを持っていることになります。

訳) 私はあなたが世界史でそれ（インドが植民地だったこと）を習ったと思います。

In 1772, Warren Hastings, governor of the Bengal region, introduced a recipe for "curry" to the UK.

文法) 同格の comma

ここでは「Warren Hastings = governor of the Bengal region」を表しています。

単語) governor 「知事、総督」

Bengal 「ベンガル」

region 「地域、地方」

introduce 「紹介する」

recipe 「レシピ、調理法」※発音注意/résəpi/ 「レサピ」

UK 「英国」 (United Kingdom 「連合王国」)

訳) 1772 年、ベンガル地域の総督だったウォーレン・ヘイスティングが英国にカレーのレシピを紹介しました。

He brought back rice, one of the main foods in Bengal, along with many spices.

文法) 挿入句 文の途中に句をはさみこむことです。

※句と節 2つ以上の語のまとまりの中に「主語 + 動詞」がないものを「句」、「主語 + 動詞」があるものを「節」と言います。

同格の comma 説明省略 「rice = one of the main foods in Bengal」

熟語) bring back A 「持ち帰る」

along with A 「A と一緒に」

訳) 彼は、たくさんのスパイスと一緒に、ベンガルの主食の一つであるお米を持ち帰りました。

His recipe was a great success and eating curry with rice became popular in the UK.

構文把握) His recipe ^① was a great success and eating curry with rice ^② became popular in the UK.

① His recipe ^{主語} was ^{動詞} a great success ^{補語} <S + V + C の第 2 文型 「S = C」>
and

② eating curry with rice ^{主語} became ^{動詞} popular in the UK. ^{目的語} <S + V + O の第 3 文型>

単語) success 「成功、大当たり」

訳) 彼のレシピは大ヒットし、お米でカレーを食べることは英国で人気になりました。

From the 19th century on, curry continued to develop in the UK.

単語) continue 「続く、続ける」

develop 「発達する、発展する、開発する、成長させる」

熟語) from A on 「A から以後は」

訳) 19 世紀から、カレーは英国で発展し続けました。

At the beginning of the century, the first curry powder appeared.

単語) powder 「粉、粉末」

appear 「現れる、登場する、～に見える」

訳) 20 世紀の初めに、最初のカレー粉ができました。

Until then, mixing the many spices to make curry was hard work.

単語) until 「～まで」

then 「その時」

mix 「混ぜる」

訳) その時まで、カレーを作るためにたくさんのスパイスを混ぜることは大変な仕事でした。

With the help of the curry powder, curry became easier to make and it spread across the UK.

注意!) 不規則変化動詞 spread - spread - spread

and 以降の主語は「it」です。もし動詞の時制(時間)が現在なら、「spreads」になっていないといけません。また、前半の動詞「became」が過去形なので、「spread」も過去形であると判断できます。

単語) spread 「広がる、広まる、普及する」

熟語) with the help of A 「Aのおかげで、Aの援助で、Aの協力で」

訳) カレー粉のおかげで、カレーは作るのがより簡単になり、英国中に広がりました。

Also, the British people began to thicken curry with flour.

単語) also 「～もまた、その上、同時に」

thicken 「濃くする、濃縮する」

flour 「小麦粉」※発音注意/flaʊər/ 「フラワー」flower (花)と同じ発音。

訳) その上、英国の人々は小麦粉でカレーを濃くし始めました。

They changed it to their own taste by using a recipe for stew, a traditional British food.

文法) 同格の comma 説明省略 「stew = a traditional British food」

単語) own 「～自身の、独特の、特有の」

taste 「味、風味」

traditional 「伝統的な」

訳) 彼らはカレーを伝統的な英国料理のシチュー向けのレシピを使うことにより、彼ら自身の味に変えました。

Part 3

British curry later sailed across the sea and came to Japan.

単語) later 「後で、以後」

sail 「航海する、渡る」

across 「横切って、渡って、超えて」

訳) 英国のカレーは後に海を渡って日本に来ました。

Early in the Meiji era, curry powder was imported and people started making curry in Japan.

単語) era 「時代、年代」

import 「輸入する、持ち込む」※発音注意 動詞は後ろを強く、名詞は前を強く発音する。

訳) 明治時代の初期に、カレー粉が輸入され、人々は日本でカレーを作り始めました。

At that time, curry was an expensive dish.

単語) expensive 「高価な、高い」

熟語) at that time 「その当時は」

訳) その当時は、カレーは高価な料理でした。

For the price of a plate of "curry and rice," a person could buy eight bowls of soba.

単語) for 「～の金額で」

plate 「皿、一皿分の料理」

bowl 「ボウル、どんぶり」

訳) 「カレーライス」一人前の金額で、一人でそば8杯買うことができました。

Also, in those days, curry was a little strange.

単語) strange 「奇妙な、変な、不思議な」

熟語) in those days 「その当時は」

訳) その上、その当時カレーは少し変わっていました。

Surprisingly, long green onions and frog meat were used in it!

単語) surprisingly 「驚いたことに」

frog 「カエル」

訳) 驚いたことに、青長ネギとカエルの肉がカレーの材料に使われていました。

Since the late Meiji ear, curry has been popular all over Japan.

文法) 現在完了形 (have[has] + 過去分詞) 説明省略

訳) 明治時代後半から、カレーは日本中で人気があります。

Some people say it was because the Japanese military adopted curry as a food for its soldiers.

構文把握) ^{主語}Some people ^{動詞}say ^{目的語}it was because the Japanese military adopted curry as a food for its soldiers.

目的語内の構造

^{主語}it ^{動詞}was ^{補語}because the Japanese military adopted curry as a food for its soldiers.

「it」は前の文章「Since the late Meiji era, curry has been popular all over Japan.」を指しています。

「because」は「～だから」と訳します。従って、この文だけ訳すと、「明治時代の後半以来、カレーは日本中で人気があるということは、日本軍が兵隊の食料としてカレーを採用したから」となります。

補語内の構造

^{接続詞}because ^{主語}the Japanese military ^{動詞}adopted ^{目的語}curry as a food for its soldiers.

分全体の目的語の中に主語 + 動詞 + 補語があり、その補語の中にまた主語 + 動詞 + 目的語があります。

単語) military 「軍隊、軍人」

adopt 「採用する、取り入れる、採用する、養子にする」

as 「～として」※as にはたくさんの意味があります。最後に説明します。

soldier 「軍人、兵隊」※発音&スペル注意 /sóuldʒər/ 「ソウルジャー」「o」は二重母音

熟語) it[that] is because A 「それは A だからである」 (it は前述の内容を指します。)

訳) 何人かの人々は、それは日本軍が兵士のための食料としてカレーを採用したからだと言います。

(日本軍が兵士のための食料としてカレーを採用したためだという人もいます。)

Curry was an ideal food for the soldiers because they could make it in large amounts and keep it for a few days.

構文把握)

^{主節}Curry was an ideal food for the soldiers ^{従属節}because they could make it in large amounts and keep it for a few days.

主節と従属節

接続詞や関係詞が頭についている方を従属節 (従位節)、これを結び付けられた方を主節と言います。

主節の構造

^{主語}Curry ^{動詞}was ^{補語}an ideal food for the soldiers

従属節の構造

^{接続詞}because ^{主語}they ^{助動詞}could ^{動詞 1}make ^{目的語 1}it in large amounts ^{等位接続詞}and ^{動詞 2}keep ^{目的語 2}it for a few days.

等位接続詞とは、2つのものを対等の関係でつなぐものです。

単語) ideal 「理想的な、最適な」

large 「大きい、多い」

amount 「量」

熟語) a few 「少しの、2、3の」※「few」は準否定語です。実際に使われている時に説明します。

訳) 彼は兵士にとって理想的な食べ物でした。なぜなら彼らは大量に作って数日間保管することができたからです。

When the soldiers went back home, they took the recipe for curry with them.

単語) take 「持っていく、連れて行く、運ぶ」

訳) 兵士が家に帰る時、彼らはカレーと一緒にカレーのレシピを持って行きました。

Because of this, people began eating it in many parts of Japan.

文法) 群前置詞「because of」

2語以上からなる語群が、1つの前置詞と同じ働きをするものを言います。「because of」は前置詞と同じ扱いになるので後ろには名詞が来ます。「because」は「接続詞」なので、後ろには「主語 + 動詞」が来ます。

単語) part「地域、地方」

熟語) because of A「Aが原因で、Aのせいで」

訳) これが原因(理由)で、人々は日本の多くの地域でカレーを食べ始めました。

「as」の使い方

「as」は接続詞として使われたり、前置詞として使われたりして、様々な意味を表します。以下に代表的な as の使い方をまとめておきます。

接続詞の as

1. 「～する時、～する間、～しながら」「時」を表す。

I saw her as I was getting off the train.

(私が電車から降りる時に、彼女を見ました。)

2. 「～につれて」「比例」を表す。

As time went by, she became more beautiful.

(時が経つにつれて、彼女はあっというまに美しくなりました。)

3. 「～(する)ように、～(する)とおりに」「様態」を表す。

Why don't you behave as I've always told you to?

(しなさいっていつも言っているようになぜしないのよ。)

4. 「～なので、～だから」「理由」を表す。

As it was getting late, he decided to go home.

(暗くなってきたので、彼は家に帰ることにしました。)

5. 「～だけれども」「譲歩」を表す。

Angry as she was, she couldn't help smiling.

(彼女は腹を立てていたが、思わず微笑んでしまいました。)

前置詞の as

1. 「～(である)と」<他動詞 + 目的語 + as...>の形で補語を導く。

Her father regards her as a genius.

(彼女の父は彼女が天才だと思っています。)

2. 「～として」

She works as a translator in Japan.

(彼女は日本で通訳として働いています。)

3. 「～の時に、～のころ」

As a child, he lived in New Zealand.

(子供のころ、彼はニュージーランドに住んでいました。)

Part 4

With the spread of curry, a lot of new curry-based foods were invented in Japan.

単語) curry-based 「カレーを用いた、カレーベースの」

invent 「発明する、考案する、創作する」

訳) カレーの普及に伴って、たくさんの新しいカレーベースの食べ物が日本で考案されました。

By combining curry with noodles and bread, curry-udon and curry-pan were made.

単語) noodle 「麺」

bread 「パン、食パン」

熟語) combine A with B 「A と B を組み合わせる、A と B を混ぜ合わせる」

訳) カレーに麺とパンを組み合わせることによって、カレーうどんとカレーパンが作られました。

Various curry-flavored snacks also appeared.

単語) curry-flavored 「カレー風味、カレー味」

snack 「スナック菓子」

訳) 様々なカレー味のお菓子もまた現れました。

You have probably eaten some of them.

文法) 現在完了形 (have[has] + 過去分詞) 説明省略

単語) probably 「たぶん、おそらく」

訳) あなたはたぶんそれらのうちいくつかを食べたことがあります。

Among them, the curry roux and "curry in a pouch" were the most successful.

単語) among 「～の間に、～の中に、～の間で」

roux 「ルー」

pouch 「小袋」 ※ curry in a pouch 「レトルトカレー」

訳) それらの中で、カレールーとレトルトカレーが最も成功しました。

They were exported overseas and became popular in such countries as Australia, China, South Korea, and the US.

単語) export 「輸出する」 ※ 発音注意 動詞は後ろを強く、名詞は前を強く発音する。

oversea 「海外へ、外国へ」

熟語) such A as B 「B のような A」

訳) それらは海外に輸出され、オーストラリア、中国、韓国そしてアメリカのような国々で人気になりました。

"Curry in a pouch" is eaten now even in the International Space Station (ISS)!

単語) even 「～でさえ、～でも」

訳) レトルトカレーは今では国際宇宙ステーションでも食べられています。

Curry was born in India.

訳) カレーはインドで生まれました。

It was later taken to the UK and then to Japan.

訳) カレーは後に英国に持って行かれ、その後日本にきました。

Now it is eaten all over the world.

訳) 今ではカレーは世界中で食べられています。

That's all for my speech.

熟語) That's all 「それで終わりです、以上です」

訳) 私のスピーチは以上です。

Thank you for listening.

熟語) thank you for doing 「～してくれてありがとう」

訳) ご静聴ありがとうございます。

Now, I'm guessing you are very hungry.

単語) now 「さあ、さて」

訳) 私はあなたがとてもお腹がすいていると推測しています。(みんなお腹がすいているよね。)

Let's go to the cafeteria and have some curry!

訳) カフェテリアに行ってカレーを食べましょう！